

# 平成 26 年度事業報告

平成 26 年 3 月 1 日から平成 27 年 2 月 28 日までの事業報告

## 1 会員状況

### 1.1 法人会員及び団体会員

級 種	平成 26 年度末	平成 25 年度末	増 減
1 級	9 社	10 社	-1 社
2 級	6 社	7 社	-1 社
3 級	20 社	19 社	+1 社
4 級	32 社	31 社	+1 社
5 級	70 社	74 社	-4 社
計	137 社	141 社	-4 社

### 1.2 個人会員

種 別	平成 26 年度末	平成 25 年度末	増 減
正会員	1137 名	1194 名	-57 名
(内・名誉会員)	9 名	11 名	-2 名
(内・永年会員)	40 名	41 名	-1 名
学生会員	83 名	96 名	-13 名
アジア海外会員	0 名	1 名	-1 名
アジア海外学生会員	0 名	0 名	0 名
計	1220 名	1291 名	-71 名

### 1.3 名誉会員 (9 名)

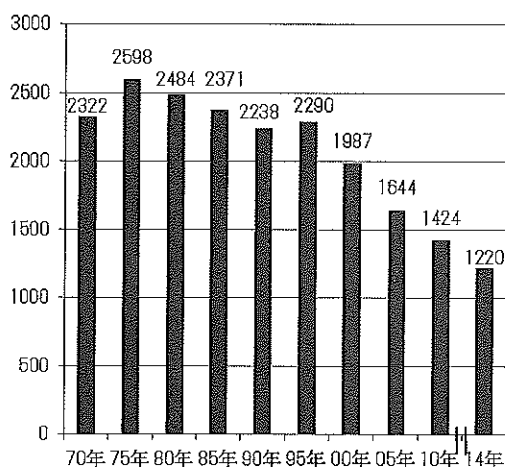
池田 功 伊藤 俊洋 大城 芳樹 荻野 圭三 北原 文雄 田嶋 和夫  
常盤 文克 二木 鋭雄 早野 茂夫

### 1.4 日本油化学会フェロー (10 名)

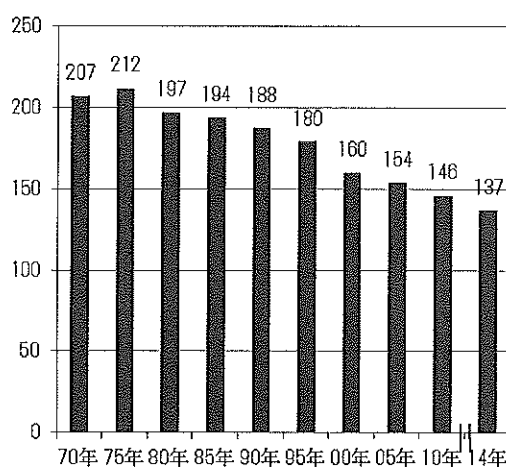
石上 裕 今榮東洋子 岡崎 三代 菊川 清見 佐藤 清隆 菅野 道廣  
妹尾 学 戸谷洋一郎 師井 義清 Ching T. Hou

### 1.5 会員数の推移 (個人・法人)

個人会員数の推移



法人会員数の推移



## 2 会務

### 2.1 総会

第60回定時総会を、平成26年4月25日、油脂工業会館9階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて108名の社員（代議員）の出席を得て議案を審議した。平成25年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り承認・可決された。また、26年度役員を選任が行われた。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

① 日本油化学会フェローに、国立台湾科技大学教授 今栄東洋子 氏が推戴された。

② 平成25年度日本油化学会学会賞及び進歩賞が次の各氏に贈呈された。

・学会賞 長崎国際大学薬学部 柴田 攻 氏  
東北大学大学院農学研究科 池田 郁男 氏

・進歩賞 弘前大学農学生命科学部 前多 隼人 氏  
(独)産業技術総合研究所 森田 友岳 氏

③ 日本油化学会女性科学者奨励賞が、(地独)大阪市立工業研究所 懸橋理枝 氏に贈呈された。

つづいて、講演（演題・講師：「健康管理への一考 ―油脂栄養の視点から―」・島崎弘幸氏〔人間総合科学大学 客員教授、本会元会長〕）が行われ総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、ラグナヴェール TOKYO で開催され、約50名が出席した。

### 2.2 理事会

定例理事会は5回開催し、平成25年度決算案の承認、平成26年度会長、副会長及び常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任（委嘱）、日本油化学会フェロー、女性科学者奨励賞及び日本油化学会学会賞等の選考、平成28年度（第55回）年会開催地の決定及び実行委員長の選任等、重要案件について審議し決議した〔出席理事 延55名、出席監事 延12名〕。別に、定款第34条に基づく決議（書面による審議と同意）を2回実施し、内閣府に定期的に提出する書類（平成25年度事業報告等に係る提出書類等）を承認した。

### 2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会を6回、支部長連絡会を1回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	2回	規格試験法委員会(含小委員会)	14回
選挙管理委員会	1回	役員等候補者推薦委員会	1回
企画・部会統括委員会	4回	学会賞等選考委員会	2回
企画・部会統括委員会全体会議	2回	功績賞等推薦委員会	2回
編集委員会(オレオサイエンス)	5回	学術専門委員会	1回
編集委員会(JOS)	1回	オレオサイエンスフェア委員会	2回

運営委員会は、法人会員（法人または団体の会員）に対しても、議決権（代議員の選挙権、被選挙権）を付与することを発案、総務委員会は、具体的な定款の変更の案を作成し理事会に提案した。併せて総務委員会は、会費規程の改定案を理事会に提案した。理事会はこれを受け、提案を承認すると共に、総会に付議することとした。財務委員会は、平成25年度決算案を理事会に上程した。また平成27年度予算書を理事会に上程するとともに、平成26年度決算書(案)を作成した。

企画・部会統括委員会は、フレッシュマンセミナー、アドバンスセミナー等を企画・開催した。規格試験法委員会は『基準油脂分析試験法』の見直しや新規試験法の検討を行った。

また、各委員会は、「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行（Web上公開も含む）、「第1回アジアオレオサイエンス会議」の開催、「第2回オレオサイエンスフェア」の開催準備、等を行った。

### 3 事業報告

#### 3.1 研究成果の公開, 人材教育, 研究の奨励及び業績の表彰を行う事業 (公1)

##### 3.1.1 研究成果の公開

###### 3.1.1.1 第53回日本油化学会年会

日本油化学会関東支部の協力のもとに、宮下和夫実行委員長を中心に実行委員会を組織し、準備及び運営を行った。本年会も会期3日間で開催した。一般講演, 受賞講演等講演の合計が169件, 参加者も506名(同時開催のACOS2014参加者を一部含む数値)と盛況であった。各専門部会によるシンポジウム・ランチョンシンポジウムを2日に分けて開催した。特別講演は、(独)産業技術総合研究所 吉田康一氏, 三浦靖岩手大学教授, 柴田重信早稲田大学教授により行われた。実行委員会は、第11回ヤングフェロー賞に加藤俊治, 真鍋祐樹の2氏を選考, 油脂工業会館学生奨励賞に12氏を選考し, 表彰した。

会期 : 平成26年9月9日(火)~11日(木)

会場 : ホテルロイトン札幌

内容 : ①参加者総数 506名

##### ②講演件数

・受賞講演	4件
・特別講演	3件
・教育講演	1件
・実行委員会シンポジウム講演	8件
・部会シンポジウム・ランチョンシンポジウム	11件
・企業ランチョンセミナー	3件
・一般講演(口頭発表)	129件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	10件

##### ③懇親会(ACOS2014 懇親会と合同開催)

日時 : 平成26年9月10日(水) 18時~20時

会場 : ホテルロイトン札幌

参加者 : 308名

###### 3.1.1.2 第1回アジアオレオサイエンス会議[1st Asian Conference on Oleo Science (ACOS)2014]

第53回日本油化学会年会と同時開催した。日本油化学会関東支部の協力のもとに、宮下和夫実行委員長を中心に実行委員会を組織し、準備及び運営を行った。会期は3日間で開催した。基調講演, 一般講演(口頭発表, ポスター発表)等の合計が204件, 参加者も327名(内, 海外参加者数:101名)と盛況であった。基調講演は、マレーシアパームオイル評議会(MPOC)のKalyana Sundram氏, 宮澤陽夫東北大学教授により行われた。実行委員会は、2014ACOS Student Poster Awardsに5氏を選考, 2014ACOS Technical Awardsに2氏を選考し, 表彰した。

会期 : 平成26年9月8日(月)~10日(水)

会場 : ホテルロイトン札幌

内容 : ①参加者総数 327名

##### ②講演件数

・基調講演	2件
・一般講演(口頭発表)[21セッション]	108件
・一般講演(ポスター発表)	92件
・部会ランチョンセミナー	1件
・ビジネスミーティング	1件

##### ③懇親会(第53回年会懇親会と合同開催; 前項参照)

### 3.1.1.3 日本油化学会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第63巻 第1号～12号 総ページ数 1,365ページ

論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、第63巻は原著論文150件を掲載した。また、ページ外で、投稿規定、入会案内等を掲載した。なお、Thomson Reuters社より、Impact Factor (IFと略)が公開され、2013年は1.201、5年IF (JOSでは初出)は1.378であった。また、第63巻掲載論文から、J-STAGEでの早期公開を開始した（希望者のみ）。

掲載内容	報文	134件
	ノート・速報	9件
	総説	7件

(2) 「オレオサイエンス」誌 第14巻 第1号～12号 総ページ数 604ページ

特集12件及び総説1件を企画したほか、引続き「若手研究者紹介」や「講座」、さらに新たに「油脂・界面 基礎講座」を企画して、ホットでわかりやすい情報を11件掲載した。また、巻頭言、表彰、会務、主催報告、学会情報、研究室紹介、書評など、会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。さらに、総説中の図をわかりやすくするため、巻頭カラーとして4ページ編集した。ページ外では、会告、目次等を、344ページ編集した。第12巻の総説類のJ-STAGE公開も実施した。

掲載内容	特集総説・単報総説	41件
	油脂・界面 基礎講座	4件
	若手研究者紹介	4件
	講座	3件
	国際油脂情報	176件

その他（巻頭言、表彰、会務、主催報告、学会情報、研究室紹介、書評など）

### 3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー（油脂）、フレッシュマンセミナー（界面）、アドバンスセミナー（油脂）、アドバンスセミナー（界面）の4件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには2009年3月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用（改訂第2版）」および「界面と界面活性剤（改訂第2版）」を使用した。参加者数は延べ231名であった。

若手の会委員会は、7月にサマースクールとして、「若手研究者のための油化学・界面科学～基礎から応用までの最新トピックス～」をテーマとした講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

### 3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成25年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成26年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、油脂工業会館学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員として本会フェローへの推戴者を選考も実施した。第61回定時総会の席上等で表彰する。

### 3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公2）

油脂及び油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法として『基準油脂分析試験法』の改訂版（2013年版）を刊行したが、次回の改訂のために、引き続き試験法の見直し作業を推進した。また、品質管理や研究開発を担う技術系職員及び学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11月に第12回界面活性剤評価・試験法セミナー、12月に第14回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の普及を図った。セミナー参加者は延89名であった。『界面活性剤評価・試験法』の改訂にも着手した。

### 3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公3）

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

#### [支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会 3回
- ・東海支部 常任幹事会 3回，支部合同幹事会 1回，支部将来計画委員会 1回
- ・関西支部 常任幹事会 1回，常任幹事会・幹事会合同会議 3回

#### [支部の行事開催]

各支部による講演会，セミナー等の行事は，延 11 回開催し，参加者数は延 753 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 48 名であった。

- |       |      |    |      |      |
|-------|------|----|------|------|
| ・関東支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 166名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 173名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 5回 | 参加者数 | 414名 |

このうち，(一財)油脂工業会館共催の地区講演会は，7月に東広島市（関西支部），10月に札幌市（関東支部），那覇市（関西支部），11月に岐阜市（東海支部）の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い，地域における学術振興・普及に努めた。

### 3.4 学術専門分野の活性化事業（公4）

学術専門分野の活性化については，前年同様、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会が活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。講演会、セミナー等の行事は、延べ 25 回開催し、参加者は延べ 1,097 名を数えた。

オレオマテリアル部会は、関東地区（テーマ名：「デザインに優れた高分子界面活性剤が拓く乳化技術の展望」）と関西地区（テーマ名：「精密分子設計から創出される界面活性剤研究の最新動向」）でそれぞれ講演会を開催した。界面科学部会は、関西支部との共催にてフレッシュマンセミナーOSAKA、関東、東海、九州の各地区セミナー・講演会を開催した。洗浄・洗剤部会は、第 46 回洗浄に関するシンポジウムを開催した。シンポジウムでは一般講演、オリジナルレポートの発表の他、「消費者のための表示を考える」をテーマに特集した。オレオライフサイエンス部会と油脂産業技術部会は共同で年会ランチョンシンポジウム、部会セミナー「有用油脂の創生と高度利用」、部会ワークショップを開催した。オレオナノサイエンス部会は、9 月年会にて部会シンポジウム、ランチョンシンポジウムを開催した。食品機能構造部会は、9 月 ACOS にて部会ランチョンシンポジウムを開催した。マスターズクラブは、関東セミナー、東海講演会、関西見学会・講演会を開催した。

各支部及び各専門部会は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年 2 回開催する全体会議で情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。